

## I-(2) 大学図書館の位置付けと役割

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授  
永田 治樹

### はじめに

現在、社会発展の中で大学という高等教育機関の在り方が大きく変わりつつある。これまでの基本的な役割と並んで、各大学では種々の挑戦が取り込まれるようになった。またそのために社会への説明責任が強く求められるようになった。一方、情報通信技術の急速な進展により、情報のデジタル化やネットワーク構築が学術情報流通のシステムを変容させ、大学図書館に基本的な役割の見直しを迫っている。

そこで、大学図書館がこのような変化のなかで、どのような位置にあるかを確認するとともに、図書館が担わねばならない役割はなにかを考えてみる。また、実例などを示し、近年の大学図書館の先進的なケースを紹介する。

大学図書館は、大学における学術研究・教育を支える重要な基盤であり、一次情報の収集・提供等による情報サービスを行う機関として重要な役割を果たしてきたが、現在、大学の学術研究基盤として、全国的・総合的な学術情報システムの整備が進められており、大学図書館は、こうした情報化等の急速な進展や新しいニーズの高まりに的確に対応しなければならない重要な転換期にある。  
(大学図書館機能の強化・高度化の推進について(報告))

大学図書館は、大学本来の目的である高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤であり、大学にとっては必要不可欠な機能を持つ大学の中核を成す施設である。そこでは、大学において行われる教育、研究に関わる学術情報の収集、蓄積、組織化が行われ、蓄積された学術情報は、検索可能な形で公開されることにより、社会の共有財産となる。これらの学術情報の活用により、大学は、教育や社会貢献活動を通じて人材養成に貢献するとともに、一層の研究活動を促進する。この知のサイクルにより、学術情報は大学の教育研究活動を一層活性化するという特徴を持つ。(学術基盤の今後の在り方について(報告))

### 1. 大学図書館をめぐる状況

#### 1. 1 高等教育の拡大

大学改革はどこに向かっているか(社会は大学になにを求めているのか)

社会に対する説明責任(認証評価で対応)

- ・ 大学の「改革」の方向性
- ・ 機関認証評価というもの(大学図書館の準備状況)
- ・ 学習成果と図書館

#### 1. 2 学術情報流通の変容

流通システムの破綻

図書館の役割の変容

- ・ デジタル化による学術情報流通システムの変化
- ・ これまでの情報資源のデジタル化の進展
- ・ 情報の確保と発信

## 2. 大学図書館の位置づけ

### 2. 1 大学における図書館の位置づけ

教育基盤+情報基盤としての図書館の位置づけ

大学のなかで教育研究基盤をどのように扱うか

- ・ 図書館の位置づけの現状とその問題点（企画立案と実施）
- ・ いわゆるコンバージェンスの議論（①コレクションの電子化（デジタル化）、②大学財政からの要請、③図書館サービス機能の再検討）
- ・ 再定義された図書館の組織

### 2. 2 学習・教育の連携・支援

学生にとって必要な支援はなにか、教員にとって必要な支援とはなにか、それらは図書館にできるのか、あるいは図書館が協力すれば可能か

- ・ コレクション（&アクセス）
- ・ インフォメーション・commons
- ・ いくつかの先導的なケース

### 2. 3 情報資源管理の方向

なにをどのように提供すればいいか

- ・ 学内外を問わず、情報資源をシームレスに接続する仕組みを整備すること
- ・ 長期的にはネットワークライブラリに移行し、知識の伝達基盤となることだが、
- ・ 現段階では、技術的な展望よりも、大学の目的にそった環境整備 → 仮想的学習環境（VLE）の実現など

おわりに

図書館がどのような働きをしなくてはならないかは、1でみる。しかし、その展開は、どのようにあたらよいを、ACRLの「高等教育における図書館基準」（2004）などで読み解いて、少なくとも現在の任務を確認しておこう。

参考資料

---

米国大学図書館協会（ACRL）高等教育機関における図書館基準（Standards for Libraries in Higher Education）（仮訳・抄）

まえがき（略）

はじめに

この基準は、高等教育機関での学術的なプログラムを支援する図書館に適用することを目的とする。以前の図書館の基準はいずれも、財源、スペース、資料とスタッフ活動といった、資源とプログラムの「インプット（投入）」に非常に偏っていた。新しい基準は、「インプット（投入）」を引き続き考慮するが、「アウトプット（産出）」と「アウトカム（成果）」についても考慮に入れる。整合性を保つために、この基準では、ACRLの大学図書館成果評価タスクフォースの報告書で使われている定義を使用する。

インプット（投入）は、一般に図書館活動の原材料として考えられているものである。資金、スペース、コレクション、設備、職員、つまり、それらによって、図書館の活動が成立するものである。

アウトプット（産出）は、行われた仕事量を測る。例：貸出冊数、回答レファレンス件数

アウトカム（成果）は、図書館利用者が、図書館の資源と活動に触れた結果、起こった変化のあり方である。

この基準は、図書館と図書館員の有効性（effectiveness）を評定する量的と質的の双方の取り組み方法を

用意する。また、機関の使命宣言（ミッション・ステートメント）のもとで、インプット、アウトプット、アウトカム の尺度の活用が重要であることを主張している。そして、これらの尺度に関して同じレベルの機関のものとの比較を推奨している。基準は、図書館の良い実践例を提示し、機関の優先順位を考慮してそうした実践を評定する方法を示す。この基準は、図書館だけを対象にしており、上位の組織（例：基盤センター）に組み込まれたものは対象にしない。

この基準の適用にあたって、これを使用する者は、近年に起きている学術的なコミュニケーションの急激な変化に留意しなくてはならない。電子出版物の数量が増加する一方で、紙とマイクロでの出版も続いており、情報を多様な形式で保存、提供、処理することが図書館員に求められる。情報が容易に入手できるようになり、利用者の期待が大幅に高まっている。入手した情報の評価を図書館員に支援してもらうことを利用者は強く期待するようになった。こうした変化は、図書館員の新しい役割を示している。すなわち、利用者とのより近い連携関係と教育プログラムに対する責任の増加である。

### 承合事項

各図書館には、比較する対象として、それぞれ同じレベルの機関を独自に選択することを奨励する。同じレベルの機関は、ベンチマーキングを行うために機関によってはすでに特定されていることもある。特定されていない場合、同じレベルの機関は、機関の使命、評判、入学の難易度、予算規模、寄付金規模、図書館経費、および／または、コレクション規模といった規準を使い判断することもできよう。一旦同レベルの機関が決定されれば、同レベルの機関と図書館の強みを比較するための「承合事項」が設定される。そして、インプットとアウトプットの尺度に関する推奨される検討事項が提案される。ここで示すリストは網羅的なものではない。機関で他の承合事項を設定できる。承合が、毎年ないしは一定の期間ごとに行われるのならば、それぞれの承合の際には、一貫し有用な結果を保証するために同カテゴリーの事項の承合を行わねばならない。

▶ 推奨承合事項：インプット尺度（略）

▶ 推奨される承合事項：アウトプット尺度（略）

### 立案（プランニング）、アセスメント、成果のアセスメント

#### ▶立案

図書館は、図書館活動の枠組みとしてミッション・ステートメントと目的を持っている。図書館の使命（ミッション）と目的は、機関の使命・目的に沿いそれと整合してはならない。図書館の品質や有効性についてのアセスメントは、機関特有の使命と目的とに密接に結びついている。機関の枠組みの中で図書館はそのプログラムとサービスを展開するために、機関全体の立案過程に関わる必要がある。戦略計画の公式の立案手順やその過程がしばしば活用される。その立案の過程では、機関を構成するコミュニティのさまざまな部署からのインプット（意見）が求められる。ビジョンと使命を明確に定義し、目的と目標を設定し、特定の戦略や最終目標を達成するよう配慮した行動方針を遂行して機関が将来に備えるのに、それらは役立つ。戦略計画の立案は、評価、更新、改善を反復するプロセスである。このプロセスは、コミュニティの本質的な価値に焦点を当て、日々の活動と決定を導く全体的な方向を示す。

#### ▶アセスメント

総合的なアセスメントをするには、全てのカテゴリー利用者だけでなく、非利用者の標本も必要である。対象となる利用者の選択と質問紙の作成は、適切な諮問委員会の協力をえて管理者と職員によって行われる。質問は、どれほど図書館の支援は機関の使命につながっており、目的と目標を達成したかに関連するものである。図書館利用者も、記名式か、もしくは匿名でこれについて自由に意見を述べ、提案できる。図書館においても、遠隔地からの電子的なアクセスを通してでも、提案できるようにすべきである。評価に参加する機会はいかなる利用者にも与えられる。回答のウェイトづけは、図書館の中心課題と使命に対応するようにする。アセスメントと評価の計画は、学年暦の周期を考慮する必要がある。評価とは、次のリストにあるうちのいくつかを使用する場合も、全ての手法を使用する場合も、いずれにしても進行中のプロセスである。正式な評価ツールには、次のものがある。

- ・ カリキュラム中の図書館によるインストラクション・プログラムが、より情報リテラシーを習得した学生を生み出しているかどうかを評定するために、新入生の時、学生生活の中間地点、卒業間近に実施される、一般的な図書館の知識に関する質問紙調査（あるいは「予備テスト」）
- ・ 学生、図書館員、指導担当の教員からのフィードバックを集める図書館員とチュートリアル（個別指導）のための評価チェックリスト
- ・ 学生の図書館利用を追跡するのに使用される学生用雑誌や情報リテラシー講習の日程
- ・ ある一定期間以上、情報資源を使った経験のある学生、教職員、スタッフ、卒業生を対象とするフォーカス・グループ・インタビュー
- ・ 他の機関の図書館員、もしくは適切なコンサルタントによるアセスメントと評価
- ・ 特定の図書館・情報サービス領域、および／または、業務の再検討

#### ▶ 成果のアセスメント

今後成果のアセスメントが、しだいに図書館の目的と目標がどれくらい達成されているかを示すようになり、そして成果に影響を及ぼすようになる。それは、学生の達成度や費用対効果に関する高等教育機関の説明責任を問題にする。この場合に、図書館の技術への大きな依存性、オンライン・サービス利用の上昇、情報リテラシー・スキルに対する責任の増加、コンソーシアムによるサービスへの依存度の増加、コレクション構築のための財源の減少、そして、学術情報の出版・発信に関する新しい展開について考慮に入れておく必要がある。

成果のアセスメントは、現行の図書館の実践の改善に有効なメカニズムになりうる。また、図書館の目的と目標において望ましいものと考えられている成果の達成に注目している。そして、図書館が実行としていた活動をどれほどうまく展開しているかの進展度といったパフォーマンス尺度を扱う。アセスメントの道具には、サーベイ、テスト、インタビュー、その他の有効な測定手法があるだろう。これらの道具には、測定する機能に合わせて特別に設計されるものもあろうし、以前に開発された道具が使用されるかもしれない。いずれにせよ、道具や標本規模や標本抽出方法の選択は重要である。アセスメントの道具は、妥当なものでなければならず、使い方も、評定する対象である課題に対して適切でなければならない。同じレベルの機関の担当者は、アセスメントの質問や標本規模について提案したり、経験から得た教訓を教えてください、成果を測る代替方法を提案するなどして、非常に貴重な力添えをしてくれるだろう。

#### 【問題提示】

1. 図書館のミッション・ステートメントは、図書館職員と機関の経営陣に明確に理解されているか。定期的な見直しがされているか。
2. 図書館の目的と目標に機関の使命をどのように組み込んでいるか。
3. パフォーマンスを評価し、達成していることを機関のコミュニティに知らせ、そして必要な改善がないかを明らかにし、かつ実現するための、系統的・継続的プログラムを、図書館はどのように維持しているか。
4. 図書館のアセスメント計画は、機関のアセスメントや認証評価に向けた戦略の不可欠な要素となっているか。たとえば、図書館は、学内の計画策定や学部等の活動と共同でアセスメントの手順を改訂したり更新したりしているか。
5. 図書館自身をどう評定するか（例：図書館はパフォーマンス（を測るため）にどんな量的・質的データを収集しているか。身体的に困難を伴う利用者に関する特別な要求をどのように考慮しているか）。
6. どのような成果を図書館は測るのか、その成果をどのように測るのか。
7. 図書館は、同じレベルの機関と自身をどのように比較するのか。

#### サービス

図書館は機関の使命と目的を果たすためにさまざまな質の高いサービスを展開し、推進し、維持し、そして、評価する。図書館は、利用者に適合した迅速な支援を提供する必要がある。図書館の利用時間は、利用者にとって妥当で便利でなければならない。レファレンスやその他の特別な支援は、機関の主たる利用者が最も必要とする時に利用可能であるものとする。

#### 【問題提示】

1. 機関の学術的なプログラムを支援しつつ図書館の最適利用の基盤となる、質の高いサービスを展開し、推進させ、維持し、そして、評価しているか。
2. 利用者が資源を十分に活用できるように設計したレファレンス、貸出、政府刊行物サービスが行われているか。
3. 学生と教員の期待がどのように図書館サービスに影響を与えているか。
4. 図書館間相互協力とドキュメント・デリバリー・サービスは、正規の利用者の要求に適切に対応できているか。
5. 図書館は、妥当な要求に合った開館時間を維持しているか。
6. キャンパスから離れたところで展開されるプログラムに対してどのような図書館サービスを用意しているか。これらの利用者の要求と満足をどのように判断するか。
7. 図書館サービスを学生と教員に、どのように知らせているか。
8. 利用者にサービスする能力を定量的・定性的に測定する尺度を図書館は維持し、活用しているか。
9. キャンパスの外で学術プログラムが提供されている場合、成功を確保するのに使われる基準やガイドラインはどのようなものか。ACRLの「遠隔教育のための図書館サービスに関するガイドライン」は、現在行われているものや考えられうるサービスを考慮するのに使用されるか。

#### インストラクション

図書館は、授業に関連した形あるいは授業に統合されたインストラクション、参加型の実地学習、オリエンテーション、正規の授業、チュートリアル（個別指導）、パス・ファインダー、レファレンス・インタビューを含むその場その場での指導など、さまざまなレファレンスや利用者教育サービスを通じて情報やインストラクションを利用者に提供する。

機関内の学術的・教育的な部門として、図書館は、生涯学習の奨励のみならず、学生の成功を促進するものである。伝統的な資源の最良のものと新しい手法や技術を組み合わせることによって、図書館は、本来の利用者の情報の検索方法や情報評価、そしてレポートや論文の作成を支援しなければならない。

加えて、図書館員は、頻繁に授業担当教職員と連携しなくてはならない。図書館員は、教育の成果アセスメントに加えて、カリキュラム計画や情報リテラシー講習に参加する。情報リテラシースキルと利用者教育は、カリキュラムを横断して行われるか、適切な授業の中で行われる。とくに情報の評価、批判的思考、知的財産権、著作権と盗用（剽窃）に注意が払われる。

インストラクションの形態は、しばしば、指導方法として取り上げられるが、「レファレンスデスクでの個人的な助言に限定されるのではなく、掘り下げた徹底的な調査相談、個別のインストラクション、電子媒体あるいは印刷媒体での援助、伝統的もしくは電子的設定のある教室でのグループ・インストラクションなどがある。」

#### 【問題提示】

1. 図書館は、インストラクションとして公式なもの非公式のものを用意しているか。
2. 多人数あるいは少人数用双方のインストラクションに対して適切なスペースを用意しているか。用意しているスペースは、全てのタイプの資源のプレゼンテーションだけでなく、実践的なインストラクションを提供するようにも設計されているか。
3. 図書館は、インストラクションの際、適切に技術を活用しているか。
4. 特定の授業の支援をするにあたって図書館のカリキュラムを展開し評価するのに、図書館員は、どのように授業担当教職員と連携するか。
5. 該当する機関では、図書館はどのように教員の研究を支援しているか。
6. 図書館は、多様な教育プログラムを用意しているか。
7. 図書館は、インストラクション・プログラムをどのように推進し、評価するか。
8. 図書館は、「高等教育のための情報リテラシー能力基準」をどのように適用するか。

## 資源

図書館は、図書館の使命と利用者の要求を支援するために、出典が確か日々更新されるさまざまな資源を用意しなければならない。その場でまたは資源を保存している遠隔地から、メインキャンパス、および／または、キャンパスから離れたところに資源は提供されるだろう。その上、資源は、印刷資源やハードコピー、オンラインのテキストあるいは画像、その他のメディアといったさまざまな形態である。予算の制約の中で、図書館はできる限り効率的な方法で質の高い資源を用意しなければならない。適切な廃棄処分によってコレクションの最新性と活力が維持されるようにすべきである。

### 【問題提示】

1. 印刷資源、電子的資源、および教材の資源の取得、保有、利用についての決定に際してどの規準が使用されるか。図書館は、どのように利用者のための資源を選択するか。
2. 図書館資源の選択、現在進行中のコレクション構築とコレクション評価での授業担当教員の役割とはなにか。
3. コレクション、資源とオンライン・データベースを量的・質的に評価するための継続的で効果的なプログラムが図書館にあるか。
4. 印刷資源、教材と電子的な資源は、学内カリキュラムと研究要求を反映しているか。
5. 図書館は、学内や遠隔地の利用者が利用できるように電子的資源の十分な利用ライセンスを有しているか。
6. コンソーシアムの購入・ライセンス合意書は、どのように活用されているか。
7. もし、図書館に機関が発行したものの収集・維持管理の責任があるとしたら、図書館はそれについてどう取り組むか。
8. 図書館のコレクションとオンライン・データベースを同じレベルの機関とどのようにして比較するのか。
9. 図書館は、適切な廃棄処分計画によってコレクションの最新性と妥当性を維持しているか。

(以下項目のみ)

アクセス

職員

施設

コミュニケーションと協力

管理

予算

基準について

本文書の全体は、Standards for Libraries in Higher Education、June, 2004.

<http://www.ala.org/ala/acrl/acrlstandards/standardslibraries.htm>

なお、全訳は、「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告書：教育と情報の基盤としての図書館（平成18年度文部科学省先導的大学推進委託事業）の付録をみよ。